

授業科目	日常生活活動学実習				
担当者	相原一貴（実務経験者）				
実務経験者の概要	理学療法士としての臨床経験があり、福祉用具の選定や住宅改修を行っていた。現在も維持期の病院に携わっている。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

日常生活活動学実習では、姿勢と動作の基礎知識、起居・移動・移乗・段差・階段・歩行など日常生活に関わる動作を理解し、それらの介助方法を学びます。また、各疾患の特性を踏まえ、対象者に対して適切な、動作指導や介助技術を学びます。

## ■ 到達目標

- ・ ADL 指導に必要な基本的動作について理解できる。
- ・ 動作指導・運動学習の視点から適切な介助法を理解し、安全に実践することができる。
- ・ 各疾患患者に対する介助方法を理解し、模倣することができる。
- ・ 各疾患患者に対する動作指導を理解し、説明することができる。
- ・ 車椅子や歩行補助具の特性を理解し、安全に操作することができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：姿勢と動作の基本知識
- 第2回 理学療法士としての日常生活活動への関わり
- 第3回 起居動作の理解と介助法
- 第4回 立ち上がり・移乗動作の理解と介助法
- 第5回 車椅子操作法
- 第6回 歩行・段差昇降・階段昇降動作の理解と介助法
- 第7回 各論 片麻痺患者の ADL 指導①
- 第8回 各論 片麻痺患者の ADL 指導②
- 第9回 各論 関節リウマチ患者、人工股関節置換術後患者の ADL 指導
- 第10回 各論 パーキンソン病患者の ADL 指導
- 第11回 各論 神経筋疾患患者、難病疾患患者の ADL 指導
- 第12回 各論 脊髄損傷患者の ADL 指導①
- 第13回 各論 脊髄損傷患者の ADL 指導②
- 第14回 各論 呼吸循環器系疾患患者の ADL 指導
- 第15回 トランスファー等の介助方法の実技確認

## ■ 評価方法

提出課題（30%）、実技試験（35%）、小テスト（35%）  
 正当な理由がない欠席や遅刻については減点（欠席：-2点、遅刻：-1点）とする。  
 また、提出物の不備や必要物の忘れなど不良な学習態度についても減点対象（1回：-5点）とする。  
 講義内テストを含む全ての試験の際に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

この科目は、座学の日常生活活動学との深く関係しています。そのため、日常生活活動学の講義で学んだ内容を必ず復習し講義に参加してください。講義で学習した介助技術の熟練のため、自主的に学生同士で実技練習をすることを推奨します。疾患によって生じる臨床症状に合わせた動作介助方法・指導方法を学ぶため、各疾患の病態について復習し、講義を受けることが望ましいです。

## ■ 教科書

書名：PT・OT ビジュアルテキスト ADL  
著者名：柴喜崇、下田信明／著  
出版社：羊土社

## ■ 参考図書

書名：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学（第5版）  
著者名：鶴見隆正編  
出版社：医歯薬出版

---

書名：新版 日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－  
著者名：伊藤利之、江藤文夫／著  
出版社：医歯薬出版

---

書名：姿勢と動作 －ADL その基礎から応用まで－（第3版）  
著者名：齋藤宏、矢谷令子・他／著  
出版社：医歯薬出版 メヂカルフレンド社

## ■ 留意事項

準備物等の連絡は Moodle を通じて行うため、各自必ず確認してください。  
動作介助に関する実技を行うので、動きやすい服装・靴で参加してください。（上下ジャージ等）

## ■ 講義受講にあたって

やむを得ず講義を欠席した場合は、数日中に講義資料等を必ず取りに来てください。